

令和6年度 第3回草津市読書のまち推進計画審議会 議事録

■日時：

令和6年12月24日（火） 10時00分～12時00分

■場所：

草津市役所 4階行政委員会室

■出席委員：

岸本会長、細谷副会長、柴田委員、茶木委員、笠井委員、藤内委員、涌井委員、小林委員、佐々木委員、堀江委員、奥村委員

■事務局：

草津市教育委員会 藤田教育長、岸本教育部長、菊池理事、安藤総括副部長、二井副部長（図書館）、学校教育課 西田課長、寺西専門員
生涯学習課 古川課長、山田課長補佐、河合主事、図書館 大西副館長、加藤副館長

■傍聴者：

0名

開会

【事務局】

開会挨拶

1 教育長挨拶

【教育長】

おはようございます。令和6年度第3回草津市読書のまち推進計画審議会を開催します。みなさま、年末のお忙しい中御出席をたまり御礼申し上げます。明日はクリスマスですが、クリスマスにちなんだブックサンタという活動があります。これは、さまざまな理由でクリスマスのお祝いが難しい子どもに本を届ける活動です。市内書店でも可能な活動で、本を選び、レジで「ブックサンタに参加したい」と伝え支払うと、誰でもサンタになることができます。これにより、全国の子どもたちがプレゼントによって本と出会える素敵な取組です。また、お正月の楽しみの一つとして福袋があります。市立図書館でも、南図書館、本館において年始に本の福袋を実施します。中にどんな本が入っているかはお楽しみですが、司書のおすすめの本が入っています。数量限定ですが、本との出会いの場として設けています。誰もが本に親しみ、生涯にわたり心豊かに過ごすことができる、そういう読書のまちになればと思っています。本日は、前回の審議会において審議した施策体系、事業を整理し、改めて

とりまとめた素案、基本理念の議論をお願いします。みなさまの御意見、活発な御議論をよろしくお願いします。

【事務局】

委員15名中11名出席で半数以上出席、草津市附属機関運営規則第6条第1項に基づき当審議会は成立、公開原則、傍聴希望者なし

【事務局】

本日の審議に移ります。草津市付属機関運営規則第5条第2項により、議事進行は会長をお願いします。

2 議事

1) (仮称) 草津市読書のまち推進計画(案)の概要および素案について【資料1、2、別添】

【事務局】

(資料1、2、別添の説明)

議事1)の質疑応答

【会長】

ありがとうございました。御意見、御質問をよろしくお願いします。

【F委員】

アンケート結果を検討して施策が考えられていると思いました。アンケート結果では、本を読まない理由として身近に本がないというハード面のことがすごく多くなっていましたが、本を読むのがおもしろくない、面倒というのも大きな割合でした。そこがやはり気になります。身近に本があっても手に取らなければ読まないし、「おもしろいな」「読みたいな」という気持ちにならないと本を読む気持ちにはならないと思うので、本と子どもをつなぐ人がすごく大事になるのではないかと思います。学校図書館の蔵書の充実もとても大切ですが、本が増えてもそれを子どもにつなげていく人がいないと、なかなか手に取らないと思うので、ぜひ司書や読書ボランティアが関わっていけるといいと思います。

【D委員】

今のお話はもっともだと思います。例えば、小学校の図書室に担任の先生がこの本が好きだと書いてあったとしたら、身近な先生がこの本が好きだと言うと本にスポットが当たると思います。私たちがおはなし会の後に「今日読んだ本は図書室にあるからね」と伝えるより効果があると思います。読書のまちである川崎市は「川崎フロンターレコーナー」を設置し選手のおすすめ本を紹介しているそうです。選手は子どもの憧れなので同じものをすすめても違う本に光るわけです。選手が小学校で読み聞かせイベントや民謡劇をしていると聞いて、子どもにキャッチーなやり方は効果があるのではないかと思います。

【会長】

誰がつなぐかということですね。Jリーグクラブと連携している図書館は結構多く、クラブチームがある所の図書館はほとんどしています。小さいときの読み聞かせで子どもが本当に耳を傾けるのは、実はお父さんやお母さんなんですね。自分の一番身近で好きな人が読んでくれる声で聴いたおはなしは心に届きます。学校の先生や選手はそれと同じです。きっかけは自分が大切な人とか、そういう人からきっかけづくりがあってはじめて本を好きになっていきます。本を読まないのは、残念ながらそういうきっかけがなかったということだと思います。本当に本が嫌いなのではなく、育っていく中できっかけを持たなかったこと不幸が、子どもが本を読まない背景の一つにあるとお話を聞きながら思いました。本があることと、子どもをつなぐ人は大切です。学校司書が配属されたことは大きいですね。

【A委員】

成人期や高齢者の読書活動について課題とありますが、小学校や中学校には図書室がありますが、社会に出てから高齢者が本に接するのは図書館しかありません。図書館に行くのが大変だと言う高齢者にどうしたらいいかということですが、今まで老人会でも社会福祉協議会でもまちづくり協議会でも読書に関する話が一度もありません。関心がゼロに等しいと思います。今日もここに来る前に「読書の会合に行きます」と近所の人に言うと、「ハ、そんな会合があるの」という感じです。読書への関心が高齢者になると特に薄いと思います。どうしたら関心を高められるかという活動ですね、どうしたらいいかということはおそらくスタートだと思います。老人会も社会福祉協議会もサロン活動が頻繁に行われ、各地でかなり人数が集まります。そういう機会を読書のきっかけとして利用すればチャンスになると思います。人の集まる場所でこういう話を進めていかないと読書への関心は高まらないと思います。

これから、小学生、中学生、学生以外にもたくさん高齢者が増えていく社会の中で、親が読書に関心を持つ土壌づくり、雰囲気づくりをしていかねばなりません。良い本があれば読むという話がありましたが、大谷翔平の8年間でまとめた本が出て6,800円しますが、私はそれでも欲しいです。お正月のお年玉として2～3冊買って読ませてあげたいという気持ちになります。魅力がある本は値段に関係なく欲しくなります。

【F委員】

高齢者サロンをしています。地域の民話を紙芝居にしている人がいて、その紙芝居を読ませてもらいました。みなさん、とてもしっかり聴いて話が盛り上がり、一緒に流行りの絵本を紹介したりしました。学区で初めての試みでしたが、たくさんの方が喜んでくれて、孫に読んであげようかなとか、地域の民話の紙芝居から地域のお地蔵様の由来や神社について本を借りてみようかなとなっていたので、また色々な取組ができるかなと思います。

【D委員】

おはなし研究会にも「地元のお話で紙芝居を作ったから、やり方・読み方を教えて欲しい」とか「おはなし会でやって欲しい」と依頼がきます。

私も10年以上高齢者サロンでボランティアをしています。絵本は簡単で見やすく、最近ではレベルが上がって内容も深いです。それを使ってサロンで絵本セラピーをしたり、そういう活動で高齢者に本を紹介することもできます。

【H委員】

アンケート結果をみると、どの年代でも図書館に行く目的がない人が結構高い割合です。小学校、中学校でも同じ傾向が出ているので、小学校、中学校で図書館に行く活動を改めて組んでいく必要があります。行政として図書館へ行く目的を作れば、目的がないから行かない、逆に言えば目的があれば行くと読めるので、施策として何かできたら改善できるのではないのでしょうか。

【I委員】

先日大阪にある、「こども本の森 中之島」に行ってきました。一步入った途端に「この本を読みたい」「手に取りたい」という配架がされていました。配架の工夫が子どもたちに本にふれさせる一つのきっかけになると思い学校で司書に相談すると、「ブックバイキングをやしましょう」と即答でした。新しい本が入った時期でもあったので、図書室の机に表紙が見えるように本を並べていただきました。子どもは元々新しい本はすぐ手に取る傾向がありますが、前からある本も織り交ぜると、3日ほどで見事に全部貸し出しになりました。そういうアイデアを専門家に出示してもらうことは学校にとって本当にありがたいことで、教員では補いきれないアイデアがもらえる専門の司書に来てもらい、相談が気軽にできる環境は本当にありがたいです。継続的に、できれば物ばかり欲しがって申し訳ありませんが、書棚は縦に並べていくものが多いので、表紙に魅了されるような並べ方ができる書架も揃うと子どもが本を手に入る機会が増えると思います。

【会長】

子どもは背表紙が見えても読まないの、表紙の楽しさをどう使うかですね。フェイスアウトできる書架もありますが、段ボールを使うと工作できるので、そういう講習会も面白いと思います。いかに本を魅せるかは大事です。

先ほどお話に出ましたが、草津市では高齢者向けの取組はしていませんか。

【事務局】

特に高齢者を対象にという取組はありませんが、古典文学の講座を開催した際には高齢者が興味を持ってよく来られます。今後本計画について考えるときに、図書館のサテライト機能の整備ということで、生涯学習課と図書館で市内14か所のまちづくりセンターにそういう機能を備えられるようなことをやっていきたいです。また、高齢者における読書活動の推進におきましては、長寿いきがい課や健康増進課と連携し、フレイルの講座やエンディングノートの書き方の講座とコラボレーションし本の紹介も一緒にできないか考えています。また、地域サロンのお話がありましたが、地域の拠点施設や書店・団体との連携というところに含まれておりまして、地域サロンや読書サロンとの連携を深めながら、子ども食堂との連携は引き続きやらせていただきたいと考えております。

【会長】

今高齢者向けの紙芝居はたくさんあるので、高齢者のグループ活動もこれから活発になればと思います。守山市は地元で紙芝居を作る活動をされていますし、東近江市は能登川の博物館に色々な資料があり、老人会に紙芝居と同時に博物館が収集した昔の農作業の道具を持って行くと話が弾み認知症予防になります。そういうふうに活動を広げていくと楽しい活動ができると思います。高齢者向けの色々な活動も非常に重要になってきます。

【D委員】

地域の近い所に図書室があるのは高齢者にとって魅力です。川崎市は一部の小中学校で土日を中心に地域の方の読書学習の場として図書室を開放し本の貸し出しを行っているそうです。そういうのだったら近くに図書室があって高齢者が利用しやすいのではないのでしょうか。

【G委員】

学校図書室の開放は私も大賛成です。親しみのある場所で借りられることがとても魅力的です。

就学前児童については、各園に配本されるあおばなブックを園の先生が上手に読み聞かせできればいいですが、長けた人が少ないので、手本として上手に読み聞かせできる人に1、2回実習に来てもらえるとありがたいです。また、お父さんお母さんの読み聞かせが一番大事ですが、苦手意識を持っておられる保護者も多いと思います。先日図書館で開催された絵本研修会で勉強させてもらいましたが、保護者も参加できる機会やそういう場を設けることも大事ではないかなと思います。

【B委員】

私が感じたのは、図書館のプレッシャーが大きいのではというところです。市の計画なのでやむを得ないですが、施策に図書館や教育委員会の部署がたくさん並んでいて大変なのではないかと感じました。先ほど本が身近にある環境をつくるというお話のなかで民間の書店の話が出ていますが、民間力のようなところが弱いなあと。例えば、私たちの世代は時間がなくて図書館に行けないし行かないし、そういう人の身近な環境というと、カフェで本が借りられるとか居酒屋に本があるとか、職場や食堂で手に取れる、返せるとか、民間でも本をデザインすることで民間力が上がっていくところがありますが、そういうところも仲間になってもらい、そういう情報を図書館が持つようなイメージがあってもいいのかなと。司書が気張ってあちこち行ってやるだけでなく、民間の協力が得られる計画がよいと思います。

私はふだん、まちづくり協議会や市民公益活動団体の支援をしています。本が好きな市民でまちライブラリーをされている方が結構います。助成金に手を挙げられた中でも、本を使った活動が結構ありました。また情報を共有しようと思いますが、そういう人たちが読書ボランティアにつながっていない現実があります。市が読書ボランティアを養成すると言っても手を挙げませんが、本のソムリエみたいに本の入り口を紹介してくれる人が地域で活

動してくれるイメージを持たれるとよいと思います。計画の中に「地域で」と書かれますが、まちづくり協議会やまちづくりセンターの職員はそこまで読書活動に手が回らずイメージがつかないと思います。民間のおはなし研究会がまちづくりセンターを使って本を紹介する機会を設けるという活動を促すのが図書館というようなイメージがあってもよいかなと思います。質問なのですが、読書ボランティアは読み聞かせがメインでしょうか。私は本を紹介してくれる人というイメージを持っていたのと、養成していく人数が少ないように思うのですが5年後の数値としてはいかがでしょうか。

【事務局】

どんどんつながって広がっていくイメージの中に、ビジョンとしては民間も視野に入れて考えていきたいと思っていますが、最初の5年間はそこまで行ききれていないところがあります。読書ボランティアの人数につきましては、読書ボランティア養成講座に参加する人数というより、講座に参加し実際に活動してもらえる実人数の想定です。図書館のサテライト機能の整備等にもなって、現在活動している読書ボランティアや市民活動団体の人数ではなく、新たに読書ボランティア養成講座を受講して読書ボランティアとして活動していただく人数として計上しています。

【C委員】

学校図書館の開放はとていいと思いました。世代ごとに分けて事業を展開していくのもいいと思うのですが、大河ドラマ「光る君へ」の放送があって初めて本屋で若い子が源氏物語本のコーナーの前に立っているのを見ました。私たちの世代は「源氏物語を読んだよ」と言いながら54帖の全部は読んでいないし、有名な部分だけという人も結構います。今ならドラマ「宙わたる教室」等、そういうところから、みんなが興味を持つことをテーマに書店とコラボレーションするとか、色々な世代があるテーマをもとに読書について話をする場を設けるのもいいのではないのでしょうか。

また、私も本を読むときに飲み物が欲しいので喫茶店とか、日本笑い学会の前会長が本を出しており、大阪で空き家を使ってお酒やコーヒーが飲めて、三々五々帰りに寄って本の話をするのがあって、結構みんなが集まってわいわい話していたと書いておられました。その方にお話をうかがうと、それはものすごくおもしろくてどんどん話が広がって、本に限らず「こういうことをしたい」と広がったと聞いていますので、そういうことも可能性の一つとしてあると思います。

講座は本当に素敵ですが、何回かある講座に全部行けるかというと高齢者は色々行きづらいので、1回きりの講座や自由度のある講座や、講師からの話だけでなく、フリータイムでコミュニケーションがとれて、行ってためになった、楽しかった、また来たいという形を検討してもらいたいです。

【D委員】

社会人は忙しくて図書館に行く時間がないということですが、日本は電子図書があまり盛んではないと読みました。電子図書を日本で初めて導入したのが千代田区立図書館で、一

人5点まで借りられ返却ボタンを押さなくても2週間で勝手に返却されるようです。パソコンやスマートフォンで24時間借りられるので、忙しい人はいつでも都合がいいときに読めて便利です。アメリカでは95%の図書館が電子図書館の機能を持っているそうです。なぜ日本は少ないかという出版社が反対していると聞きました。

【事務局】

電子書籍というと、個人的に利用する電子書籍をイメージされると思います。図書館で利用できる電子書籍は限られており、かなり制限があります。また、1冊の単価が非常に高いです。人気のある本を電子でといっても人気があることで単価が高いことと、電子といっても借りられるのも1人のため予約がたまること、予算面の問題がすごく多いです。あとは、電子書籍を導入するには2年間借り入れするか50回貸出するかを選べるということで私たちも検討していますが、著作権のこともあり、誰にでも貸出するというより読書バリアフリーの観点から対象者を検討したり、新書でもかなり単価が高いのでジャンル等考えています。

【会長】

すべての本が電子書籍で読める状況ではありません。日本は電子書籍の8割がコミックで、若い人はスマートフォンで漫画を読んでいます。2割が一般の本でほとんどが実用書ですので、図書館で借りたい本がそれほど電子書籍化されておらず導入率が低くなっています。ただ、先日、いわゆるリアル書店とネット書店の売り上げが逆転しました。Amazonなどのネット書店のほうが実際の本屋より売り上げが多く、現実はそのような方向なので一定進んでいくと思います。

【E委員】

障害者の観点から言うと、麻痺があってページをめくることができない人もいますので、そういう人に向けて電子書籍を推進して欲しいです。ハード面では棚の工夫とか。高い所は車いすでは届きません。また、草津市の広報は3、4頁でも点字にすると結構なボリュームになります。点字で読みたい人もいます。読書バリアフリーで外国の人のことはよく書いていますが、障害者のことは書かれていないので追記してもらいたいです。

【副会長】

「本はそもそもおもしろくない」という本や読書に対するネガティブなイメージを変えることが大事ですが、どうすれば変えていけるのかというのは難しいところです。色々な団体や図書館による地道な広報や、全世代に本のおもしろさや読書の大切さを伝える情報発信が大事で、今回も課題に掲げられ基本方向にも書かれていますが、具体的にどうするか煮え切っていないのかなと感じており、考えをお聞きしたいです。

図書館のSNSで若い世代に伝えていくことも大事だと思う一方で、草津市の広報を見ていると読みやすくコンテンツも充実しているという印象を持っているのですが読書や図書館の情報が薄く味気ない印象です。広報はたくさんの方が読むので、1ページ、1ページ半を使って読書のまちとしてがんばっていく、機運を盛り上げる意味でも思い切った取組

が必要です。A委員が先ほどおっしゃったように読書のまち推進計画自体を知らないことが問題であり、市全体で機運を盛り上げていくために広報を使うこともあると思います。

【会長】

事務局で御検討をお願いします。

2) 成果指標について

【事務局】

(資料2の説明)

議事2) の質疑応答

【会長】

ありがとうございました。御意見、御質問をよろしくお願いします。

【B委員】

基本方針1の2「1か月に1回も本を読まなかった市内小中学生の割合」がわかりにくいです。1か月の間に1冊も本を読まなかった、ということでしょうか。

【事務局】

1ページも読まなかったということです。全国的に捉える指標です。

【会長】

基本方針3だけ令和6年からかなりの増加率になっており、チャレンジングな目標です。成果指標について他に御意見がなければ以上でよろしいでしょうか。

3) 基本理念について

【事務局】

(資料3の説明)

〈案1〉読書に親しみ 出会いと新たな学び 心豊かなまちくさつ

〈案2〉本との出会いで心豊かな人生を育む つながり広がる読書のまちくさつ

〈案3〉生涯の学びと出会い 心豊かな人生を育む読書のまちくさつ

議事3) の質疑応答

【会長】

ありがとうございました。E委員から順に御意見をよろしくお願いします。

【E委員】

本は生涯的なものですし、案3がいいです。シンプルで、生涯学習と人生を育むというところで。

【F委員】

案1が読みやすいですが、「読書のまちくさつ」で締めたほうがよく、案2か3です。

ただ、「生涯の学び」というと固い感じがするので案2がいいかなと思いました。

【G委員】

「読書のまちくさつ」が入っていない、「心豊かなまち」が気に入ったので案1です。

【H委員】

「読書のまちくさつ」が入っているほうがよく、案2は固いので案3です。

【I委員】

「読書」が最初にあるとわかりやすいので、案1です。

【D委員】

短いほうがわかりやすいので、案1か3です。「読書のまち」がいいので案3です。

【C委員】

「読書のまちくさつ」が入ったほうがいいですし、短いほうがいいので案1か3です。「生涯の学び」が少しかたいですが案3です。

【B委員】

「であい」は漢字を変えていますね。案1と3は「人との出会い」で、案2のイメージがいいと思います。ただ、長いので「つながりひろがるまちくさつ」くらいで、「読書のまちくさつ」もいいですがなくてもいいと思います。

【A委員】

短いほうがいいので、案3です。市長の挨拶でも「健幸都市くさつ」を何度も聞ききましたが、その成果はあったと思います。これが決まれば「読書のまちくさつ」もおっしゃるのでしょうか。来年はそれを期待しています。

【副会長】

短いほうがいいのと、理念がしっかり打ち出されているのと、「読書のまち」が入っている点で案2か3ですが、案2の後半が恵庭市と同じですね。真似たように見えるので案3がいいです。

【会長】

「であい」の漢字を変えているのは意味があるのでしょうか。

【事務局】

「出会い」は人とのであいや心に残る出来事とのであいです。「出合い」は物事とのであいという使い方があるようです。

【会長】

固いという話もありました。恵庭市のほうが語調がよいですね。案3を柔らかくするような工夫をいただければと思います。

【D委員】

「生涯」を「人生」に変えたらどうでしょうか。「生涯」が固いです。「人生の学びと出会い」。

【会長】

「生涯」をなくすとか。「学びと出会い」。後ろに「心豊かな人生」があるので、学びと出会いが人生につながっていくこともありますね。

【H 委員】

「心豊かな出会いと学び 読書のまちくさつ」。心豊かにするのが読書であるとわかるし、心豊かな出会いと学びがあることがわかります。

【会長】

固い言葉がなくなりましたね。「心豊かな出会いと学び 読書のまちくさつ」。色々省かれたので、元々込められた想いがあると思いますが。

【F 委員】

学びと出会いで心豊かな人生になる感じなので、「学びと出会いで心豊かな人生を育む」がいいと思います。

【C 委員】

見てすぐわかる、文章ではなくてコメントがあるほうがいいので、「生涯の」を外して「学びと出会い 心豊かな人生を育む 読書のまちくさつ」というふうに、一つひとつのフレーズが頭に入るような短い文を合わせたほうが、みんなが最後まで読もうという、邪魔くささがなくなると思います。

【事務局】

「出会いと学び」は教育振興基本計画にあるので入れたいです。教育振興基本計画は「出会いと学びのまちくさつ」です。

【会長】

学ぶことを通して出会うイメージですね。「心豊かな出会いと学び 読書のまちくさつ」。

【事務局】

「学びと出会い」は名詞の「学び」と名詞の「出会い」を「と」でつないでいます。しかし、知らない人が見ると学びに対して出会う、「出会い」を動詞的にとる場合があるので、「AとB」というつながりの意味なら「出会いと学び」のほうが誤解はないと思います。

【D 委員】

「人生を育む」が言いにくいので、これをとった案が私は言いやすいです。

【会長】

「出会いと学び 心豊かな人生を育む 読書のまちくさつ」と言うと真ん中が重い感じになりますよね。「出会いと学び 心豊かな読書のまちくさつ」。語調はいいですね。

【事務局】

「人生を育む」が抜けると生涯を通じてということが抜けてしまいます。生涯を通じての学びでもあります。

【会長】

真ん中を軽くする言葉があるといいですね。「出会いと学び 心豊かな人生 読書のまち

くさつ」。

【C 委員】

読書によって育まれる人生や、出会いと学びによって育まれる人生を言いたいのだと思います。「育む」に代わる言葉は浮かびませんが、育まれていくことも大事だと思います。

【F 委員】

「育む」はきれいな言葉ですし連呼するわけじゃないから、文章を見たときにこのフレーズは素敵です。

【C 委員】

言いづらさはあるですが、「育む」には時間の長さ、読書の長さ、経過がある気がするのでもいいと思います。

【会長】

文字から伝わるものがありますね。

【G 委員】

「出会いと学び」の次に「人生を育む」を入れてはどうでしょうか。

【会長】

「心豊か」は「人生」にかけていましたね。

【H 委員】

「出会いと学び ウェルビーイングな生き方を 読書のまちくさつ」か、「出会いと学び 心豊かな生き方を 読書のまちくさつ」はどうでしょうか。

【C 委員】

「ウェルビーイング」って何だろうという人がいると思います。

【事務局】

たくさんの意見が出ました。会長と副会長に一任し、事務局で相談させていただいてもよいでしょうか。

【会長】

多数決はいかかなものかと思いますので、私と副会長とで事務局ともう少し練り御報告するということでよいでしょうか。[異議なし]

ありがとうございます。本日予定していた議題は終了しました。進行を事務局に返します。

閉会

【事務局】

閉会挨拶